



## システム管理コマンド

---

- arp (3 ページ)
- boot (4 ページ)
- boot system (5 ページ)
- cat (6 ページ)
- copy (7 ページ)
- copy startup-config tftp: (8 ページ)
- copy tftp: startup-config (9 ページ)
- debug voice diagnostics mac-address (10 ページ)
- dir (11 ページ)
- exit (13 ページ)
- help (14 ページ)
- history (15 ページ)
- idprom (16 ページ)
- install (18 ページ)
- l2 traceroute (32 ページ)
- license boot level (33 ページ)
- license smart deregister (35 ページ)
- license smart register idtoken (36 ページ)
- license smart renew (37 ページ)
- location (38 ページ)
- no debug all (42 ページ)
- ping (43 ページ)
- ping6 (44 ページ)
- request platform software console attach switch (45 ページ)
- reset (47 ページ)
- sdm prefer (48 ページ)
- service private-config-encryption (49 ページ)
- set (50 ページ)
- show debug (53 ページ)

- [show flow monitor \(54 ページ\)](#)
- [show install \(59 ページ\)](#)
- [show license all \(63 ページ\)](#)
- [show license status \(65 ページ\)](#)
- [show license summary \(67 ページ\)](#)
- [show license udi \(68 ページ\)](#)
- [show license usage \(69 ページ\)](#)
- [show location \(70 ページ\)](#)
- [show mac address-table move update \(72 ページ\)](#)
- [show parser encrypt file status \(73 ページ\)](#)
- [show platform integrity \(74 ページ\)](#)
- [show platform sudi certificate \(75 ページ\)](#)
- [show sdm prefer \(77 ページ\)](#)
- [show tech-support license \(79 ページ\)](#)
- [system env temperature threshold yellow \(81 ページ\)](#)
- [traceroute mac \(83 ページ\)](#)
- [traceroute mac ip \(86 ページ\)](#)
- [type \(89 ページ\)](#)
- [unset \(90 ページ\)](#)
- [version \(92 ページ\)](#)

# arp

Address Resolution Protocol (ARP) テーブルの内容を表示するには、ブートローダモードで **arp** コマンドを使用します。

**arp** [*ip\_address*]

---

構文の説明	<i>ip_address</i> (任意) ARP テーブルまたは特定の IP アドレスのマッピングを表示します。
-------	------------------------------------------------------------

---

---

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

---

---

コマンド モード	ブートローダ
----------	--------

---

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

---

---

使用上のガイドライン	ARP テーブルには、IP アドレスと MAC アドレスのマッピングが示されます。
------------	-------------------------------------------

---

例

次に、ARP テーブルを表示する例を示します。

```
デバイス: arp 172.20.136.8
arp'ing 172.20.136.8...
172.20.136.8 is at 00:1b:78:d1:25:ae, via port 0
```

# boot

実行可能イメージをロードおよびブートして、コマンドラインインターフェイス (CLI) を表示するには、ブートローダモードで **boot** コマンドを使用します。

**boot** *flag* *filesystem*:/*file-url*...

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	ファイルシステムのエイリアス。システム ボード フラッシュ デバイスには <b>flash:</b> を使用します。USB メモリスティックには <b>usbflash0:</b> を使用します。
<i>/file-url</i>	ブート可能なイメージのパス (ディレクトリ) および名前。各イメージ名はセミコロンで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

引数を何も指定しないで **boot** コマンドを入力した場合、**device**は、BOOT 環境変数が設定されていればその中の情報を使用して、システムを自動的にブートしようとします。

*file-url*変数にイメージ名を指定した場合、**boot** コマンドは指定されたイメージをブートしようとします。

ブートローダ **boot** コマンドのオプションを設定した場合は、このコマンドがただちに実行され、現在のブートローダセッションだけに適用されます。

これらの設定が保存されて次回のブート処理に使用されることはありません。

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

## 例

次の例では、*new-image.bin* イメージを使用して**device**をブートする方法を示します。

```
デバイス: set BOOT flash:/new-images/new-image.bin
```

```
デバイス: boot
```

このコマンドを入力すると、セットアッププログラムを開始するように求められます。

## boot system

次のブートサイクル中にロードするシステムイメージを指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **boot system** コマンドを使用します。起動システムイメージの指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot system {filesystem: /file-url | switch all filesystem: /file-url}
no boot system [{filesystem: /file-url | switch all [filesystem: /file-url]}]
```

### 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムを指定します。オプションは *bootflash*:、*flash*:、*ftp*:、*http*:、*sftp*:、および *tftp*: です。

**switch all** スタック内のすべてのデバイスのシステムイメージを設定します。

*file-url* システムの起動時にロードするシステムイメージの URL です。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、ブートフラッシュから `cat9k_lite_iosxe.16.09.03.SPA.bin` という名前のシステムイメージファイルをブートする例を示します。

```
Device(config)# boot system bootflash:cat9k_lite_iosxe.16.09.03.SPA.bin
```

次に、IPアドレスを持つネットワークサーバからスタック内のすべてのデバイスをブートする例を示します。

```
Device(config)# boot system switch all tftp://10.11.15.10/cat9k_lite_iosxe.16.09.03.SPA.bin
```

# cat

1つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで**cat** コマンドを使用します。

**cat** *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムを指定します。

*/file-url* 表示するファイルのパス（ディレクトリ）と名前を指定します。ファイル名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定した場合は、各ファイルの内容が順に表示されます。

## 例

次の例では、イメージファイルの内容を表示する方法を示します。

```
デバイス: cat flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

# copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、ブートローダモードで **copy** コマンドを使用します。

**copy** *filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/source-file-url* コピー元のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

*/destination-file-url* コピー先のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 127 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

ファイルを別のディレクトリにコピーする場合は、そのディレクトリが存在していなければなりません。

## 例

次の例では、ルートにあるファイルをコピーする方法を示します。

```
デバイス: copy usbflash0:test1.text usbflash0:test4.text
File "usbflash0:test1.text" successfully copied to "usbflash0:test4.text"
```

ファイルがコピーされたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダコマンドを入力します。

## copy startup-config tftp:

スイッチから TFTP サーバに設定をコピーするには、特権 EXEC モードで **copy startup-config tftp:** コマンドを使用します。

**copy startup-config tftp:** *remote host {ip-address}/{name}*

### 構文の説明

*remote host {ip-address}/{name}* リモートホストのホスト名または IP アドレス。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

スイッチから現在の設定をコピーするには、**copy startup-config tftp:** コマンドを実行し、続く指示に従います。設定が TFTP サーバにコピーされます。

次に、別のスイッチへログインし、**copy tftp: startup-config** コマンドを実行して、続く指示に従います。これで、設定は別のスイッチにコピーされます。

### 例

次に、TFTP サーバに設定をコピーする例を示します。

```
デバイス: copy startup-config tftp:
Address or name of remote host []?
```

## copy tftp: startup-config

TFTP サーバから新しいスイッチに設定をコピーするには、新しいスイッチ上で、特権 EXEC モードで **copy tftp: startup-config** コマンドを使用します。

```
copy tftp: startup-config remote host {ip-address}/{name}
```

---

### 構文の説明

*remote host {ip-address}/{name}* リモートホストのホスト名または IP アドレス。

---

---

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

### コマンド モード

特権 EXEC

---

### コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE リリース 16.1 このコマンドが導入されました。

---

---

### 使用上のガイドライン

設定をコピーした後、その設定を保存するには、**write memory** コマンドを使用し、その後スイッチをリロードするか、または **copy startup-config running-config** コマンドを実行します。

---

### 例

次に、TFTP サーバからスイッチに設定をコピーする例を示します。

```
デバイス: copy tftp: startup-config  
Address or name of remote host []?
```

## debug voice diagnostics mac-address

音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にするには、特権 EXEC モードで **debug voice diagnostics mac-address** コマンドを使用します。デバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose**  
**nodebug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose**

### 構文の説明

<b>voice diagnostics</b>	音声クライアントの音声のデバッグを設定します。
<b>mac-address mac-address1 mac-address mac-address2</b>	音声クライアントの MAC アドレスを指定します。
<b>verbose</b>	音声診断の冗長モードを有効にします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

以下は、**debug voice diagnostics mac-address** コマンドの出力例で、MAC アドレスが 00:1f:ca:cf:b6:60 である音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にする手順を示しています。

```
デバイス# debug voice diagnostics mac-address 00:1f:ca:cf:b6:60
```

# dir

指定されたファイルシステムのファイルおよびディレクトリのリストを表示するには、ブートローダモードで **dir** コマンドを使用します。

**dir** *filesystem:/file-url*

## 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムのエイリアス。システム ボード フラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。USB メモリスティックには **usbflash0:** を使用します。

*/file-url* (任意) 表示するコンテンツが格納されているパス (ディレクトリ) およびディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

ブートローダ  
特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

## 例

次の例では、フラッシュメモリ内のファイルを表示する方法を示します。

```

デバイス: dir flash:
Directory of flash:/
  2  -rwx      561   Mar 01 2013 00:48:15  express_setup.debug
  3  -rwx   2160256   Mar 01 2013 04:18:48  c2960x-dmon-mz-150-2r.EX
  4  -rwx     1048   Mar 01 2013 00:01:39  multiple-fs
  6  drwx      512   Mar 01 2013 23:11:42  c2960x-universalk9-mz.150-2.EX
645 drwx      512   Mar 01 2013 00:01:11  dc_profile_dir
647 -rwx     4316   Mar 01 2013 01:14:05  config.text
648 -rwx        5   Mar 01 2013 00:01:39  private-config.text

96453632 bytes available (25732096 bytes used)

```

表 1: *dir* のフィールドの説明

フィールド	説明
2	ファイルのインデックス番号

フィールド	説明
-rwx	ファイルのアクセス権 (次のいずれか、またはすべて) <ul style="list-style-type: none"><li>• d : ディレクトリ</li><li>• r : 読み取り可能</li><li>• w : 書き込み可能</li><li>• x : 実行可能</li></ul>
1644045	ファイルのサイズ
<date>	最終変更日
env_vars	ファイル名

# exit

以前のモードに戻るか、CLI EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## exit

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

グローバル コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

次に、コンフィギュレーション モードを終了する例を示します。

```
デバイス(config)# exit  
デバイス#
```

# help

利用可能なコマンドを表示するには、ブートローダモードで **help** コマンドを使用します。

## help

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	ブートローダ	
コマンド履歴	リリース	変更内容

Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。
--------------------------	-----------------

## 例

次に、利用可能なブートローダコマンドのリストを表示する例を示します。

```

デバイス:help
? -- Present list of available commands
arp -- Show arp table or arp-resolve an address
boot -- Load and boot an executable image
cat -- Concatenate (type) file(s)
copy -- Copy a file
delete -- Delete file(s)
dir -- List files in directories
emergency-install -- Initiate Disaster Recovery
...
...
...
unset -- Unset one or more environment variables
version -- Display boot loader version

```

# history

ブートローダモードのコマンドラインインターフェイス (CLI) で実行されたすべてのコマンドの一覧を表示するには、ブートローダモードで **history** コマンドを使用します。

## history

---

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

---

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

### コマンドモード

ブートローダ

---

### コマンド履歴

---

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

---

## 例

次に、ブートローダモードのCLIで実行されたコマンド履歴を表示する例を示します。

デバイス: **history**

# idprom

デバイスの識別プログラム可能読み取り専用メモリ（IDPROM）情報を表示するには、ブートローダモードで **idprom** コマンドを使用します。

## idprom

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	ブートローダ				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.2</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。				

## 例

次に、ブートローダモードのデバイスの IDPROM 情報を表示する例を示します。

デバイス: **idprom**

次に、ブートローダモードでの **idprom** コマンドの出力例を示します。

デバイス: **idprom**

```

NAME  VALUE
=====
Part Number - PCA : 73-19245-01
Revision number - PCA : 04
  Deviation number : 0x0
Serial Number - PCA : JAE22080JWK
  RMA test history : 0x00
    RMA Number : 0-0-0-0
    RMA history : 0x00
Part Number - TAN(6-byte) : 68-101382-01
Revision number - TAN : 17
  CLEI codes : 1
ECI number - Alphanumeric : 0
Product number/identifier : C9200-48P-4X-E
  Version identifier : P2A
    Serial Number : JPG220700QD
      MAC address - Base : 682C.7BF7.0E80
MAC address - block size : 128
  RFID - chassis : E000000000000000
Manufacturing test data : 0000000000000000

```

```
DB Info
  USB DB
    part number - USB : 73-18785-02
    rev number - USB : 02
    serial number - USB : JAE22110914
  DB Info
    POE DB 1
      part number - POE1 : 73-18775-01
      rev number - POE1 : 04
      serial number - POE1 : JAE22080ACT
      UDI name/Base PID : C9200-48P-4X
      Controller Type : 0x313
Hardware Version <major.minor> : <0.2>
```

=====

# install

ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) パッケージをインストールするには、特権 EXEC モードで **install** コマンドを使用します。

```
install {abort | activate | file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} [{auto-abort-timer timer
timer prompt-level {all | none}}] | add file {bootflash: | flash: | ftp: | harddisk: | http: | https: |
rep: | scp: | tftp: | webui:} [{activate [{auto-abort-timer timer prompt-level {all | none} commit}]}]
| commit | auto-abort-timer stop | deactivate file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} | label
id {description description | label-name name} | remove {file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:}
| inactive } | rollback to {base | committed | id {install-ID} | label {label-name}}}
```

## 構文の説明

<b>abort</b>	現在のインストール操作を終了します。
<b>activate</b>	<p><b>install add</b> コマンドを通じて SMU が追加されているかどうかを検証します。</p> <p>このキーワードは、互換性チェックを実行し、パッケージステータスを更新します。パッケージを再起動できる場合はポストインストール スクリプトをトリガーして必要なプロセスを再起動するか、または再起動できないパッケージの場合はリロードをトリガーします。</p>
<b>file</b>	アクティブにするパッケージを指定します。
<b>{bootflash:   flash:   harddisk:   webui:}</b>	インストールしたパッケージのロケーションを指定します。
<b>auto-abort-timer timer</b>	(任意) 自動アボートタイマーをインストールします。
<b>prompt-level {all   none}</b>	<p>(任意) インストールアクティビティについてのプロンプトをユーザに表示します。</p> <p>たとえば、<b>activate</b> キーワードはリロードが必要なパッケージに対してリロードを自動的にトリガーします。パッケージをアクティブにする前に、続行するかどうかについてユーザに確認するプロンプトが表示されます。</p> <p><b>all</b> キーワードを使用するとプロンプトをイネーブルにすることができます。<b>none</b> キーワードはプロンプトをディセーブルにします。</p>

<b>add</b>	<p>ファイルをリモートロケーション（FTPまたはTFTP）からデバイスにコピーし、プラットフォームとイメージのバージョンのSMU互換性チェックを実行します。</p> <p>このキーワードは、指定したパッケージがプラットフォームで必ずサポートされるように基本の互換性チェックを実行します。</p>
<b>{ bootflash:   flash:   ftp:   harddisk:   http:   https:   rcp:   scp:   tftp:   webui: }</b>	追加するパッケージを指定します。
<b>commit</b>	<p>リロード後もSMUの変更が持続されるようにします。</p> <p>パッケージをアクティブにした後、システムがアップ状態にある間、または最初のリロード後にコミットを実行できます。パッケージがアクティブになっていてもコミットされていない場合は、最初のリロード後はアクティブの状態を保ちますが、2回目のリロード後はアクティブ状態を保ちません。</p>
<b>auto-abort-timer stop</b>	自動アボートタイマーを停止します。
<b>deactivate</b>	<p>インストールしたパッケージを非アクティブにします。</p> <p>(注) パッケージを非アクティブにすると、パッケージステータスも更新され、プロセスが再起動またはリロードされることがあります。</p>
<b>label <i>id</i></b>	ラベルを付けるインストールポイントのIDを指定します。
<b>description</b>	指定したインストールポイントに説明を追加します。
<b>label-name <i>name</i></b>	指定されたインストールポイントにラベル名を追加します。
<b>remove</b>	<p>インストールしたパッケージを削除します。</p> <p><b>remove</b> キーワードは、現在非アクティブ状態のパッケージでのみ使用できます。</p>
<b>inactive</b>	非アクティブ状態のすべてのパッケージをデバイスから削除します。

<b>rollback</b>	データモデルインターフェイス (DMI) パッケージ SMU をベースバージョン、最後にコミットされたバージョン、または既知のコミット ID にロールバックします。
<b>to base</b>	ベースイメージに戻します。
<b>committed</b>	最後のコミット操作が実行されたときのインストール状態に戻します。
<b>id <i>install-ID</i></b>	特定のインストールポイント ID に戻します。有効な値は、1 ~ 4294967295 です。

**コマンド デフォルト** パッケージはインストールされません。

**コマンド モード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.4	このコマンドがシリーズの C9200L モデルに追加されました。

**使用上のガイドライン** SMU は、システムにインストールしてパッチ修正やセキュリティ解決をリリースされたイメージに提供ができるパッケージです。このパッケージには、パッケージの内容を記述するいくつかのメタデータとともに、リリースにパッチを適用するための最小限の一連のファイルが含まれています。

SMU をアクティブ化する前にパッケージを追加する必要があります。

パッケージは、フラッシュから削除する前に非アクティブにする必要があります。削除したパッケージは、もう一度追加する必要があります。

単一のコマンド (1 ステップのプロセス) または個別のコマンド (3 ステップのプロセス) を使用して SMU パッケージのインストール、アクティブ化、コミットを行うことができます。SMU パッケージファイルを 1 つのみインストールする必要がある場合は 1 ステッププロセスを使用し、複数の SMU をインストールする必要がある場合は 3 ステッププロセスを使用します。3 ステッププロセスにより、インストールする SMU パッケージファイルが複数ある場合に必要なりロード回数が最小限に抑えられます。次の例は、両方の方法を示しています。

#### 例 : SMU のインストール (3 ステッププロセス、flash : を使用)

次に、3 ステッププロセスを使用して SMU パッケージをインストールする例を示します。ここでは、SMU パッケージファイルがデバイスのフラッシュに保存されます。

##### 1. フラッシュから SMU パッケージファイルをコピーしてインストールします。

```
Device# install add file flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
install_add: START Wed Jun 10 14:17:45 IST 2020
install_add: Adding SMU
```

```

--- Starting initial file syncing ---
Info: Finished copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin to the
selected switch(es)
Finished initial file syncing

*Jun 10 14:17:48.128 IST: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install add flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.binExecuting
pre scripts...
Executing pre sripts done.
--- Starting SMU Add operation ---
Performing SMU_ADD on all members
  [1] SMU_ADD package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_ADD on switch 1
Checking status of SMU_ADD on [1]
SMU_ADD: Passed on [1]
Finished SMU Add operation

SUCCESS: install_add /flash/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin Wed Jun
10 14:18:00 IST 2020

```

**show install summary** コマンドを使用して、SMU パッケージファイルの追加とインストールを確認します。SMU パッケージファイルはまだアクティブ化およびコミットされていないため、ステータスは I です。

```

Device# show install summary

[ Switch 1 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   I    flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
IMG   C    16.9.4.0.3431
-----
Auto abort timer: inactive
-----

```

## 2. SMU パッケージファイルをアクティブ化します。

```

Device# install activate file flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin

install_activate: START Wed Jun 10 14:19:59 IST 2020
install_activate: Activating SMU

*Jun 10 14:20:01.513 IST: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install activate flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin

This operation requires a reload of the system. Do you want to proceed? [y/n]y
Executing pre scripts...
Executing pre sripts done.

--- Starting SMU Activate operation ---
Performing SMU_ACTIVATE on all members
  [1] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_ACTIVATE on switch 1
Checking status of SMU_ACTIVATE on [1]
SMU_ACTIVATE: Passed on [1]
Finished SMU Activate operation

```

```
install_activate: Reloading the box to complete activation of the SMU...
install_activate will reload the system now!

*Jun 10 14:20:22.258 IST: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 1
R0/0: rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 seconds
      Chassis 1 reloading, reason - Reload command
Jun 10 14:20:28.291: %PMAN-5-EXITACTION: F0/0: pvp: Process manager is exiting: reload
fp action requested
Jun 10 14:20:30.718: %PMAN-5-EXITACTION: R0/0: pvp: Proce
Jun 10 14:20:34.834: %PMAN-5-EXITACTION: C0/0: pvp: Process manager is exiting:
Jun 10 14:20:36.053: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
install activate SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
watchdog watchdog0: watchdog did not stop!
reboot: Restarting system
```

```
Initializing Hardware...
<output truncated>
```

```
#####
Jun 10 08:52:01.806: %BOOT-5-BOOTTIME_SMU_TEMP_ACTIVE_DETECTED: R0/0: install_engine:
SMU file /flash/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin active temporary...
SMU commit is pending
```

```
Cisco IOS Software [Fuji], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_LITE_IOSXE), Version
16.9.4, RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2019 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 22-Aug-19 17:30 by mcpre
```

```
<output truncated>
```

**show install summary** コマンドを使用して SMU パッケージファイルのアクティブ化を確認します。SMU パッケージファイルはまだコミットされていないため、ステータスは U です。

```
[ Switch 1 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
           C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
```

```
-----
Type  St  Filename/Version
-----
SMU   U   flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
IMG   C   16.9.4.0.3431
-----
```

```
Auto abort timer: active on install_activate, time before rollback - 01:41:52
-----
```

### 3. SMU パッケージファイルのコミット

```
Device# install commit
install_commit: START Wed Jun 10 14:38:42 IST 2020
install_commit: Committing SMU
```

```
*Jun 10 14:38:44.906 IST: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install commitExecuting pre scripts....
Executing pre sripts done.
--- Starting SMU Commit operation ---
Performing SMU_COMMIT on all members
 [1] SMU_COMMIT package(s) on switch 1
 [1] Finished SMU_COMMIT on switch 1
Checking status of SMU_COMMIT on [1]
SMU_COMMIT: Passed on [1]
```

```
Finished SMU Commit operation

SUCCESS: install_commit /flash/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin Wed
Jun 10 14:38:58 IST 2020
*Jun 10 14:38:59.385 IST: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: Switch 1 R0/0:
install_engine: Completed install commit SMU
```

**show install summary** コマンドを使用してコミットを確認します。SMU パッケージファイルのインストール、アクティブ化、コミットが行われました。ステータスはcです。

```
Device# show install summary
[ Switch 1 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   C    flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
IMG   C    16.9.4.0.3431
-----
Auto abort timer: inactive
-----
```

**show install active** コマンドを使用してアクティブパッケージを確認します。

```
Device# show install active
[ Switch 1 ] Active Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   C    flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
IMG   C    16.9.4.0.3431
-----
```

次のように **show version** コマンドを使用して、バージョンを確認します。

```
Device# show version
Cisco IOS XE Software, Version 16.09.04
Cisco IOS Software [Fuji], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_LITE_IOSXE), Version
16.9.4, RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2019 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 22-Aug-19 17:30 by mcpre
...
```

### 例：複数の SMU のインストール（3ステッププロセス、flash : を使用）

次に、3ステッププロセスを使用して複数の SMU パッケージファイルをインストールする例を示します。ここでは、SMU パッケージファイルがデバイスのフラッシュに保存されます。

スイッチスタックにインストールされている SMU ファイルは次のとおりです。

```
cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin および
cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
```

1. (任意) スイッチスタックの準備ができており、SMUパッケージファイルがデバイスのフラッシュ内にあることを確認します。

```
Device# show switch
Switch/Stack Mac Address : 08ec.f586.aa80 - Local Mac Address
Mac persistency wait time: Indefinite

Switch# Role Mac Address Priority Version H/W Current State
-----
*1 Active 08ec.f586.aa80 1 V01 Ready
2 Member 7488.bb3c.f600 1 V01 Ready
3 Member 7488.bb3f.9c00 1 V01 Ready
4 Member 08ec.f5ee.1080 1 V01 Ready
5 Standby 08ec.f589.7c80 1 V01 Ready

Device# dir flash: | i smu

89075 -rw- 79256 Oct 26 2035 07:07:42 +00:00
cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
89082 -rw- 9656 Oct 26 2035 07:08:08 +00:00
cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
```

2. フラッシュから SMU パッケージファイルをコピーして追加します。

一度に1つのSMUパッケージファイルのみが追加されます。SMUパッケージファイルを追加する間にリロードは必要ありません。

```
Device# install add file flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
install_add: START Fri Oct 26 07:10:59 UTC 2035
Oct 26 07:11:01.695 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install add flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
install_add: Adding SMU
install_add: Checking whether new add is allowed ....

--- Starting initial file syncing ---

*Oct 26 07:11:01.643: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install add flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin[1]:
Copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin from switch 1 to switch
2 3 4 5
[2 3 4 5]: Finished copying to switch 2 switch 3 switch 4 switch 5
Info: Finished copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin to the
selected switch(es)
Finished initial file syncing

--- Starting SMU Add operation ---
Performing SMU_ADD on all members
[1] SMU_ADD package(s) on switch 1
[1] Finished SMU_ADD on switch 1
[2] SMU_ADD package(s) on switch 2
[2] Finished SMU_ADD on switch 2
[3] SMU_ADD package(s) on switch 3
[3] Finished SMU_ADD on switch 3
[4] SMU_ADD package(s) on switch 4
[4] Finished SMU_ADD on switch 4
[5] SMU_ADD package(s) on switch 5
[5] Finished SMU_ADD on switch 5
Checking status of SMU_ADD on [1 2 3 4 5]
SMU_ADD: Passed on [1 2 3 4 5]
Finished SMU Add operation

SUCCESS: install_add Fri Oct 26 07:11:45 UTC 2035
Oct 26 07:11:46.695 %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
```

```

install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
Device#
*Oct 26 07:11:46.656: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Completed install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin

```

**show install summary** コマンドを使用して、最初の SMU パッケージファイルの追加を確認します。

```

Device# show install summary
[ Switch 1 2 3 4 5 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted

```

```

-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   I    flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
IMG   C    16.12.3.0.3752

```

```

-----
Auto abort timer: inactive
-----

```

2 番目の SMU パッケージファイルを追加します。

```

Device# install add file flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin

install_add: START Fri Oct 26 07:12:38 UTC 2035
Oct 26 07:12:40.782 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install add flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
install_add: Adding SMU
install_add: Checking whether new add is allowed ....

--- Starting initial file syncing ---

*Oct 26 07:12:40.743: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install add flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin[1]:
Copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin from switch 1 to switch
2 3 4 5
[2 3 4 5]: Finished copying to switch 2 switch 3 switch 4 switch 5
Info: Finished copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin to the
selected switch(es)
Finished initial file syncing

--- Starting SMU Add operation ---
Performing SMU_ADD on all members
[1] SMU_ADD package(s) on switch 1
[1] Finished SMU_ADD on switch 1
[2] SMU_ADD package(s) on switch 2
[2] Finished SMU_ADD on switch 2
[3] SMU_ADD package(s) on switch 3
[3] Finished SMU_ADD on switch 3
[4] SMU_ADD package(s) on switch 4
[4] Finished SMU_ADD on switch 4
[5] SMU_ADD package(s) on switch 5
[5] Finished SMU_ADD on switch 5
Checking status of SMU_ADD on [1 2 3 4 5]
SMU_ADD: Passed on [1 2 3 4 5]
Finished SMU Add operation

SUCCESS: install_add Fri Oct 26 07:13:24 UTC 2035
Oct 26 07:13:25.656 %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
Decive#

```

```
*Oct 26 07:13:25.616: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Completed install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
```

**show install summary** コマンドを使用して、両方の SMU パッケージファイルの追加とインストールを確認します。両方のパッケージファイルがまだアクティブ化およびコミットされていないため、ステータスは **I** です。

```
Device# show install summary
```

```
[ Switch 1 2 3 4 5 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
```

```
-----
Type  St   Filename/Version
-----
```

```
SMU   I    flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
SMU   I    flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
IMG   C    16.12.3.0.3752
-----
```

```
-----
Auto abort timer: inactive
-----
```

### 3. SMU パッケージファイルをアクティブ化します。

複数の SMU を入力する場合は、（前後にスペースを入れずに）カンマを使用してファイル名を区切ります。また、合計文字数が 128 を超えないようにしてください。この手順にはリロードが含まれます。

```
Device# install activate file
```

```
flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin,cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
```

```
install_activate: START Sun Oct 28 13:23:42 UTC 2035
```

```
Oct 28 13:23:44.620 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install activate
```

```
flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin,cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
install_activate: Activating SMU
```

```
*Oct 28 13:23:44.581: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
Started install activate
```

```
flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin,cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
```

```
This operation may require a reload of the system. Do you want to proceed? [y/n]y
```

```
Executing pre scripts....
```

```
Executing pre sripts done.
```

```
--- Starting SMU Activate operation ---
```

```
Performing SMU_ACTIVATE on all members
```

```
*Oct 28 13:24:41.563: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 1 R0/0:
rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 secondsOct 28
```

```
13:24:43.259: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: R0/0: rollback_timer:
Install auto abort timer will expire in 7200 seconds
```

```
*Oct 28 13:24:43.222: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 4 R0/0:
rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 seconds
```

```
*Oct 28 13:24:43.192: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 3 R0/0:
rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 seconds
```

```
*Oct 28 13:24:43.134: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 2 R0/0:
rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 seconds
```

```
*Oct 28 13:24:43.825: %INSTALL-5-INSTALL_AUTO_ABORT_TIMER_PROGRESS: Switch 5 R0/0:
rollback_timer: Install auto abort timer will expire in 7200 seconds [1] SMU_ACTIVATE
```

```

package(s) on switch 1
 [1] Finished SMU_ACTIVATE on switch 1
 [2] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 2
 [2] Finished SMU_ACTIVATE on switch 2
 [3] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 3
 [3] Finished SMU_ACTIVATE on switch 3
 [4] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 4
 [4] Finished SMU_ACTIVATE on switch 4
 [5] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 5
 [5] Finished SMU_ACTIVATE on switch 5
Checking status of SMU_ACTIVATE on [1 2 3 4 5]
SMU_ACTIVATE: Passed on [1 2 3 4 5]
Finished SMU Activate operation

install_activate: Reloading the box to complete activation of the SMU...
install_activate will reload the system now!

Chassis 4 reloading, reason - Reload command
reload fp action requested
rp processes exit with reload switch code

watchdog watchdog0: watchdog did not stop!
reboot: Restarting system

Initializing Hardware...

System Bootstrap, Version 16.12.1r [FC6], RELEASE SOFTWARE (P)
Compiled Thu 02/13/2020 12:36:08 by rel

Current ROMMON image : Primary
C9200L-24T-4G platform with 2097152 Kbytes of main memory

boot: attempting to boot from [flash:packages.conf]
boot: reading file packages.conf

#####
Oct 28 13:26:55.653: %BOOT-5-BOOTTIME_SMU_TEMP_ACTIVE_DETECTED: R0/0: install_engine:
SMU file /flash/cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin active temporary...
SMU commit is pending
Oct 28 13:26:55.912: %BOOT-5-BOOTTIME_SMU_TEMP_ACTIVE_DETECTED: R0/0: install_engine:
SMU file /flash/cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin active temporary...
SMU commit is pending

Waiting for 120 seconds for other switches to boot
#####
Switch number is 4
All switches in the stack have been discovered. Accelerating discovery

```

**show install summary** コマンドを使用して SMU パッケージファイルのアクティブ化を確認します。両方のファイルがまだコミットされていないため、ステータスは U です。

```

Device# show install summary
[ Switch 1 2 3 4 5 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   U     flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin

```

```
SMU   U   flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
IMG   C   16.12.3.0.3752
```

```
-----
Auto abort timer: active on install_activate, time before rollback - 01:50:16
-----
```

#### 4. SMU パッケージファイルをコミットします。

```
Device# install commit
install_commit: START Sun Oct 28 13:34:42 UTC 2035
Oct 28 13:34:45.202 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install commit

*Oct 28 13:34:45.146: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
  Started install commitinstall_commit: Committing SMU
Executing pre scripts....
Executing pre sripts done.
--- Starting SMU Commit operation ---
Performing SMU_COMMIT on all members

*Oct 28 13:35:24.436: %PLATFORM-4-ELEMENT_WARNING: Switch 1 R0/0: smand: 5/RP/0:
limited space - copy files out of flash: directory. flash: value 84% (1599 MB) exceeds
warning level 70% (1337 MB).
*Oct 28 13:35:30.587: %PLATFORM-4-ELEMENT_WARNING: Switch 1 R0/0: smand: 2/RP/0:
limited space - copy files out of flash: directory. flash: value 74% (1412 MB) exceeds
warning level 70% (1337 MB). [1] SMU_COMMIT package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_COMMIT on switch 1
  [2] SMU_COMMIT package(s) on switch 2
  [2] Finished SMU_COMMIT on switch 2
  [3] SMU_COMMIT package(s) on switch 3
  [3] Finished SMU_COMMIT on switch 3
  [4] SMU_COMMIT package(s) on switch 4
  [4] Finished SMU_COMMIT on switch 4
  [5] SMU_COMMIT package(s) on switch 5
  [5] Finished SMU_COMMIT on switch 5
Checking status of SMU_COMMIT on [1 2 3 4 5]
SMU_COMMIT: Passed on [1 2 3 4 5]
Finished SMU Commit operation

SUCCESS: install_commit /flash/cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
/flash/cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
Sun Oct 28 13:35:52 UTC 2035
Oct 28 13:35:53.789 %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
install commit SMU

JJ22-Vore_stack-24TE#
*Oct 28 13:35:53.749: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: Switch 1 R0/0: install_engine:
  Completed install commit SMU
```

**show install summary** コマンドを使用してコミットを確認します。SMU パッケージファイルのインストール、アクティブ化、コミットが行われました。ステータスは c です。

```
Device# show install summary
[ Switch 1 2 3 4 5 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
             C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type  St   Filename/Version
-----
SMU   C   flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt22238.SPA.smu.bin
SMU   C   flash:cat9k_lite_iosxe.16.12.03.CSCvt72427.SPA.smu.bin
IMG   C   16.12.3.0.3752
```

```
-----
Auto abort timer: inactive
-----
```

### 例：SMUのインストール（3ステッププロセス、TFTP：を使用）

次に、3ステッププロセスを使用してSMUパッケージをインストールする例を示します。ここでは、SMUパッケージファイルがリモート（TFTP）ロケーションに保存されます。

#### 1. SMUパッケージファイルを追加します。

```
Device# install add file
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin

Jun 22 11:32:27.035: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install add
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Jun 22 11:32:27.035 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install add
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Downloading file
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Finished downloading file
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
to flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
install_add: Adding SMU
install_add: Checking whether new add is allowed ....

--- Starting initial file syncing ---

025335: *Jun 22 2020 11:32:26 UTC: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0:
install_engine: Started install add
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin[1]:
Copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin from switch 1 to
switch 2
[2]: Finished copying to switch 2
Info: Finished copying flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin to the
selected switch(es)
Finished initial file syncing

--- Starting SMU Add operation ---
Performing SMU_ADD on all members
[1] SMU_ADD package(s) on switch 1
[1] Finished SMU_ADD on switch 1
[2] SMU_ADD package(s) on switch 2
[2] Finished SMU_ADD on switch 2
Checking status of SMU_ADD on [1 2]
SMU_ADD: Passed on [1 2]
Finished SMU Add operation

SUCCESS: install_add Mon Jun 22 11:32:56 UTC 2020
Jun 22 11:32:57.598: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Jun 22 11:32:57.598 %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: R0/0: install_engine: Completed
install add SMU flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin

ECSG-SEC-C9200-24P#
025336: *Jun 22 2020 11:32:57 UTC: %INSTALL-5-INSTALL_COMPLETED_INFO: Switch 1 R0/0:
```

```
install_engine: Completed install add SMU
flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
```

**show install summary** コマンドを使用して追加を確認します。

```
Device# show install summary
[ Switch 1 2 ] Installed Package(s) Information:
State (St): I - Inactive, U - Activated & Uncommitted,
C - Activated & Committed, D - Deactivated & Uncommitted
-----
Type St Filename/Version
-----
SMU I flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
IMG C 16.12.02.0.6
-----
Auto abort timer: inactive
-----
```

## 2. SMU パッケージファイルをアクティブ化します。



(注) (前の手順で) TFTP を使用して SMU パッケージファイルを追加し、(TFTP ではなく) フラッシュを使用してアクティブにします。

```
Device# install activate file flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin

install_activate: START Mon Jun 22 11:37:17 UTC 2020

Jun 22 11:37:37.582: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install activate flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Jun 22 11:37:37.582 %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: R0/0: install_engine: Started
install activate flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
install_activate: Activating SMU

025337: *Jun 22 2020 11:37:37 UTC: %INSTALL-5-INSTALL_START_INFO: Switch 1 R0/0:
install_engine: Started install activate
flash:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
This operation may require a reload of the system. Do you want to proceed? [y/n]n
```

次のとおり **show version** コマンドを使用して、バージョンを確認します。

```
Device# show version
Cisco IOS XE Software, Version 16.09.04
Cisco IOS Software [Fujii], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_LITE_IOSXE), Version
16.9.4, RELEASE SOFTWARE (fc2)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2019 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 22-Aug-19 17:30 by mcpre
<output truncated>
```

## 3. SMU パッケージファイルをコミットします。

```
Device# install commit

install_commit: START Mon Jun 22 11:38:48 UTC 2020
SUCCESS: install_commit Mon Jun 22 11:38:52 UTC 2020
```

```
Device#
```

更新パッケージがコミットされてリロードが繰り返されても持続すること確認します。

```
Device# show install summary
```

```
Active Packages:  
tftp:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin  
Inactive Packages:  
No packages  
Committed Packages:  
tftp:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin  
Uncommitted Packages:  
No packages  
Device#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show install</b>	インストールパッケージに関する情報を表示します。

## l2 traceroute

レイヤ2 トレースルートサーバを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **l2 traceroute** コマンドを使用します。レイヤ2 トレースルートサーバを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**l2 traceroute**  
**no l2 traceroute**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

レイヤ2 トレースルートはデフォルトでは有効になっており、ユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート 2228 でリスニングソケットが開きます。UDP ポート 2228 を閉じてレイヤ2 トレースルートが無効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **no l2 traceroute** コマンドを使用します。

次に、**l2 traceroute** コマンドを使用してレイヤ2 トレースルートを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# l2 traceroute
```

# license boot level

デバイスで新しいソフトウェアライセンスを起動するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **license boot level** コマンドを使用します。すべてのソフトウェアライセンスをデバイスから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**license boot level** *base-license-level* **addon** *addon-license-level*  
**no license boot level**

## 構文の説明

*base-license-level* スイッチの起動レベル。例：**network-essentials**

使用可能な基本ライセンスは次のとおりです。

- Network Essentials
- Network Advantage (Network Essentials を含む)

*addon-license-level* 3年、5年、または7年の固定期間で登録できる追加ライセンス。

使用可能なアドオンライセンスは次のとおりです。

- Digital Networking Architecture (DNA) Essentials
- DNA Advantage (DNA Essentials を含む)

## コマンド デフォルト

設定されたイメージでスイッチが起動します。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**license boot level** コマンドは次の目的に使用します。

- ライセンスのダウングレードとアップグレード
- 評価ライセンスと拡張ライセンスの有効化と無効化
- アップグレードライセンスのクリア

このコマンドは、特定のモジュールのライセンスインフラストラクチャで保持されているライセンス階層ではなく、設定されたライセンスレベルで起動するようにライセンスインフラストラクチャを設定します。

- スイッチをリロードすると、ライセンスインフラストラクチャでスタートアップコンフィギュレーションの設定にライセンスがあるかどうかを確認されます。設定にライセンスがある場合、そのライセンスでスイッチが起動します。ライセンスがない場合、ライセンスインフラストラクチャでイメージ階層に従ってライセンスが確認されます。

- 強制ブート評価ライセンスが期限切れの場合、ライセンスインフラストラクチャで通常の階層に従ってライセンスが確認されます。
- 設定されたブートライセンスがすでに期限切れになっている場合、ライセンスインフラストラクチャで階層に従ってライセンスが確認されます。

## 例

次に、スイッチの次回リロード時に *network-essentials* ライセンスを有効化する例を示します。

```
Device(config)# license boot level network-essentials
```

# license smart deregister

Cisco Smart Software Manager (CSSM) への device の登録をキャンセルするには、特権 EXEC モードで **license smart deregister** コマンドを使用します。

## license smart deregister

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**license smart deregister** コマンドは次の目的に使用します。

- デバイスをインベントリから外すとき
- デバイスを再配置のために別の場所に出荷するとき
- デバイスを交換のために返品許可 (RMA) プロセスを使用してシスコに返却するとき

### 例

次に、CSSM への device の登録を解除する例を示します。

```

デバイス# license smart deregister
*Jun 25 00:20:13.291 PDT: %SMART_LIC-6-AGENT_DEREG_SUCCESS: Smart Agent for Licensing
De-registration with the Cisco Smart Software Manager or satellite was successful
*Jun 25 00:20:13.291 PDT: %SMART_LIC-5-EVAL_START: Entering evaluation period
*Jun 25 00:20:13.291 PDT: %SMART_LIC-6-EXPORT_CONTROLLED: Usage of export controlled
features is Not Allowed for udi PID:ISR4461/K9,SN:FDO2213A0GL

```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>license smart register idtoken</b>	CSSM に device を登録します。
<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。
<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。

# license smart register idtoken

Cisco Smart Software Manager (CSSM) からトークンが生成された device を登録するには、特権 EXEC モードで **license smart register idtoken** コマンドを使用します。

**license smart register idtoken** *token\_ID* {**force**}

構文の説明	<i>token_ID</i>	CSSM からトークンが生成されたデバイス。
	<b>force</b>	デバイスが登録されているかどうかに関わらずデバイスを強制的に登録します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、CSSM に device を登録する例を示します。

```

デバイス# license smart register idtoken
$T14UytrNXBzbEs1ck8veUtWaG5abnZJOFdDa1FwbVRa%0Ab1RMbz0%3D%0A
Registration process is in progress. Use the 'show license status' command to check the
progress and result
Device#% Generating 2048 bit RSA keys, keys will be exportable...
[OK] (elapsed time was 0 seconds)

```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>license smart deregister</b>	CSSM への device の登録をキャンセルします。
	<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。
	<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
	<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
	<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。

# license smart renew

Cisco Smart Software Manager (CSSM) で device の ID または承認を手動で更新するには、特権 EXEC モードで **license smart renew** コマンドを使用します。

**license smart renew {auth | id}**

構文の説明	<b>auth</b>	承認を更新します。
	<b>id</b>	ID を更新します。
コマンドデフォルト	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 認証期間は、スマートライセンスシステムによって 30 日ごとに更新されます。ライセンスが「承認済み」または「コンプライアンス違反」の状態にある限り、認証期間が更新されます。猶予期間は、認証期間が過ぎると開始されます。猶予期間中、またはライセンスが「期限切れ」状態になると、システムは引き続き認証期間の更新を試行します。再試行に成功すると、新しい認証期間が開始されます。

## 例

次に、device のライセンスを更新する例を示します。

```
デバイス# license smart renew auth
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。
	<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
	<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。

# location

エンドポイントのロケーション情報を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **location** コマンドを使用します。ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
location {admin-tag string | civic-location identifier {hostid} | civic-location identifier {hostid} |
elin-location {string | identifier id} | geo-location identifier {hostid} | prefer {cdp weight
priority-value | lldp-med weight priority-value | static config weight priority-value}
no location {admin-tag string | civic-location identifier {hostid} | civic-location identifier {hostid}
| elin-location {string | identifier id} | geo-location identifier {hostid} | prefer {cdp weight
priority-value | lldp-med weight priority-value | static config weight priority-value}
```

## 構文の説明

<b>admin-tag</b> <i>string</i>	管理タグまたはサイト情報を設定します。英数字形式のサイト情報またはロケーション情報。
<b>civic-location</b>	都市ロケーション情報を設定します。
<b>identifier</b>	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前を指定します。
<b>host</b>	ホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を定義します。
<i>id</i>	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前。  (注) LLDP-MED スイッチ TLV での都市ロケーションの ID は 250 バイト以下に制限されます。スイッチ設定中に使用できるバッファスペースに関するエラーメッセージを回避するには、各都市ロケーション ID に指定されたすべての都市ロケーション情報の全体の長さが 250 バイトを超えないようにします。
<b>elin-location</b>	緊急ロケーション情報 (ELIN) を設定します。
<b>geo-location</b>	地理空間的なロケーション情報を設定します。
<b>prefer</b>	ロケーション情報のソースのプライオリティを設定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード      グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**location civic-location identifier** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、都市ロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。**location geo-location identifier** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、ジオロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。

都市ロケーション ID は 250 バイトを超えてはなりません。

ホスト ID はホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を設定します。ID がホストではない場合、ID はインターフェイスで参照できる地理空間的なテンプレートまたは都市ロケーションだけを定義します。

**host** キーワードは、デバイスの場所を定義します。**identifier** と **host** キーワードを使用して設定可能な都市ロケーションオプションは同じです。都市ロケーション コンフィギュレーション モードで次の都市ロケーション オプションを指定できます。

- **additional-code** : 追加都市ロケーション コードを設定します。
- **additional-location-information** : 追加都市ロケーション情報を設定します。
- **branch-road-name** : ブランチのロード名を設定します。
- **building** : 建物の情報を設定します。
- **city** : 都市名を設定します。
- **country** : 2 文字の ISO 3166 の国コードを設定します。
- **county** : 郡名を設定します。
- **default** : コマンドをデフォルト値に設定します。
- **division** : 市の地区の名前を設定します。
- **exit** : 都市ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **floor** : 階数を設定します。
- **landmark** : 目印となる建物の情報を設定します。
- **leading-street-dir** : 町名番地に付与される方角を設定します。
- **name** : 居住者名を設定します。
- **neighborhood** : ネイバーフッド情報を設定します。
- **no** : 指定された都市ロケーション データを拒否し、デフォルト値を設定します。
- **number** : 町名番地を設定します。
- **post-office-box** : 私書箱を設定します。
- **postal-code** : 郵便番号を設定します。
- **postal-community-name** : 郵便コミュニティ名を設定します。
- **primary-road-name** : 主要道路の名前を設定します。
- **road-section** : 道路の区間を設定します。
- **room** : 部屋の情報を設定します。
- **seat** : 座席の情報を設定します。
- **state** : 州の名前を設定します。

- **street-group** : 町名番地のグループを設定します。
- **street-name-postmodifier** : 町名番地の名前のポストモディファイアを設定します。
- **street-name-premodifier** : 町名番地の名前のプレモディファイアを設定します。
- **street-number-suffix** : 町名番地の番号のサフィックスを設定します。
- **street-suffix** : 町名番地のサフィックスを設定します。
- **sub-branch-road-name** : 支線からさらに分岐した道路名を設定します。
- **trailing-street-suffix** : 後に続く町名番地のサフィックスを設定します。
- **type-of-place** : 場所のタイプを設定します。
- **unit** : 単位を設定します。

地理的ロケーション コンフィギュレーション モードで次の地理空間的なロケーション情報を指定できます。

- **altitude** : 高さの情報を階数、メートル、またはフィート単位で設定します。
- **latitude** : 度、分、秒の緯度情報を設定します。範囲は -90 ~ 90 度です。正の値は、赤道より北側の位置を示します。
- **longitude** : 度、分、秒の経度の情報を設定します。範囲は -180 ~ 180 度です。正の値は、グリニッジ子午線の東側の位置を示します。
- **resolution** : 緯度と経度の分解能を設定します。分解能値を指定しない場合、10mのデフォルト値が緯度と経度の分解能パラメータに適用されます。緯度と経度の場合、分解能の単位はメートルで測定されます。分解能の値は小数単位でも指定できます。
- **default** : デフォルトの属性によって、地理的位置を設定します。
- **exit** : 地理的ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **no** : 指定された地理的パラメータを拒否し、デフォルト値を設定します。

ロケーション TLV をディセーブルにするには、**no lldp med-tlv-select location information** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトでは、ロケーション TLV はイネーブルに設定されています。

次の例では、スイッチに都市ロケーション情報を設定する方法を示します。

```

デバイス(config)# location civic-location identifier 1
デバイス(config-civic)# number 3550
デバイス(config-civic)# primary-road-name "Cisco Way"
デバイス(config-civic)# city "San Jose"
デバイス(config-civic)# state CA
デバイス(config-civic)# building 19
デバイス(config-civic)# room C6
デバイス(config-civic)# county "Santa Clara"
デバイス(config-civic)# country US
デバイス(config-civic)# end

```

設定を確認するには、**show location civic-location** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、スイッチ上で緊急ロケーション情報を設定する方法を示します。

```

デバイス(config)# location elin-location 14085553881 identifier 1

```

設定を確認するには、**show location elin** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、スイッチに、地理空間ロケーション情報を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# location geo-location identifier host  
デバイス(config-geo)# latitude 12.34  
デバイス(config-geo)# longitude 37.23  
デバイス(config-geo)# altitude 5 floor  
デバイス(config-geo)# resolution 12.34
```

設定された地理空間的な場所の詳細を表示するには、**show location geo-location identifier** コマンドを使用します。

## no debug all

スイッチのデバッグを無効にするには、特権 EXEC モードで **no debug all** コマンドを使用します。

### no debug all

---

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

---

コマンド モード          特権 EXEC

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

---

### 例

次に、スイッチでデバッグを無効にする例を示します。

```
デバイス: no debug all
All possible debugging has been turned off.
```

# ping

ICMP エコー要求パケットをネットワークホストに送信するには、ブートローダモードで **ping** コマンドを使用します。

## **ping***ip-address*

構文の説明	<i>ip-address</i> ネットワークホストの IP アドレス
-------	--------------------------------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	ブートローダ
----------	--------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、エコー要求パケットをネットワークホストに送信する例を示します。

デバイス: **ping 1.1.1.1 255.255.255.0**

# ping6

ICMP エコー要求パケットを IPv6 ネットワークホストに送信するには、ブートローダモードで **ping6** コマンドを使用します。

**ping6***ipv6-address*

構文の説明	<i>ipv6-address</i> IPv6 ネットワークホストの IP アドレス
-------	---------------------------------------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	ブートローダ
----------	--------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、エコー要求パケットを IPv6 ネットワークホストに送信する例を示します。

デバイス: **ping6 2001:0DB8:c18:1::/64**

# request platform software console attach switch

メンバスイッチでセッションを開始するには、特権 EXEC モードで **request platform software console attach switch** コマンドを使用します。



- (注) スタッキングスイッチ (Catalyst 3650/3850/9200/9300 スイッチ) では、このコマンドはスタンバイコンソールでセッションを開始する場合にのみ使用できます。Catalyst 9500 スイッチでは、このコマンドは Stackwise Virtual セットアップでのみサポートされます。メンバスイッチでセッションを開始することはできません。デフォルトでは、すべてのコンソールはすでにアクティブであるため、アクティブなコンソールでセッションを開始する要求はエラーになります。

**request platform software console attach switch** { *switch-number* | **active** | **standby** } { **0/0** | **R0** }

## 構文の説明

**switch-number** スイッチ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 9 です。

**active** アクティブスイッチを指定します。

(注) この引数は、Catalyst 9500 スイッチではサポートされていません。

**standby** スタンバイスイッチを指定します。

**0/0** SPA-Inter-Processor スロットが 0 で、ベイが 0 であることを指定します。

(注) このオプションをスタッキングスイッチとともに使用しないでください。それはエラーになります。

**R0** ルートプロセッサ スロットが 0 であることを指定します。

## コマンドデフォルト

デフォルトでは、スタック内のすべてのスイッチはアクティブです。

## コマンドモード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

スタンバイスイッチでセッションを開始するには、最初に設定で有効にする必要があります。

## 例

次に、スタンバイスイッチとのセッションを行う例を示します。

```
Device# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)# end
Device# request platform software console attach switch standby R0
#
# Connecting to the IOS console on the route-processor in slot 0.
# Enter Control-C to exit.
#
Device-stby> enable
Device-stby#
```

## reset

システムでハードリセットを実行するには、ブートローダモードで **reset** コマンドを実行します。ハードリセットを行うと、**device**の電源切断後に電源を投入する手順と同様に、プロセッサ、レジスタ、およびメモリの内容が消去されます。

### reset

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。
-------	---------------------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	ブートローダ
----------	--------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

### 例

次の例では、システムをリセットする方法を示します。

```
デバイス: reset  
Are you sure you want to reset the system (y/n)? y  
System resetting...
```

# sdm prefer

スイッチで使用する SDM テンプレートを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sdm prefer** コマンドを使用します。

**sdm prefer**  
{ **advanced** }

構文の説明	<b>advanced</b> NetFlow などの高度な機能をサポートします。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.2</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** device スタックでは、すべてのスタック メンバが、アクティブな device に保存された同一の SDM テンプレートを使用する必要があります。

新規 device がスタックに追加されると、アクティブ device に保存された SDM コンフィギュレーションは、個々の device に設定されているテンプレートを上書きします。

## 例

次に、高度なテンプレートを設定する例を示します。

```
デバイス(config)# sdm prefer advanced
デバイス(config)# exit
デバイス# reload
```

## service private-config-encryption

プライベート設定ファイルの暗号化を有効にするには、**service private-config-encryption** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**service private-config-encryption**  
**no service private-config-encryption**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、プライベート設定ファイルの暗号化を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# service private-config-encryption
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show parser encrypt file status</b>	プライベート設定の暗号化ステータスを表示します。

# set

環境変数を設定または表示するには、ブートローダモードで **set** コマンドを使用します。環境変数は、ブートローダまたは **device** で稼働している他のソフトウェアを制御するために使用できます。

**set** *variable value*

## 構文の説明

変数 値	<p><i>variable</i> および <i>value</i> の適切な値には、次のいずれかのキーワードを使用します。</p> <p><b>MANUAL_BOOT</b> : <b>device</b> の起動を自動で行うか手動で行うかどうかを決定します。</p> <p>有効な値は 1/Yes と 0/No です。0 または No に設定されている場合、ブートローダはシステムを自動的に起動します。他の値に設定されている場合は、ブートローダモードから手動で <b>device</b> を起動する必要があります。</p> <hr/> <p><b>BOOT filesystem:/file-url</b> : 自動起動時にロードおよび実行される実行可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。</p> <p><b>BOOT</b> 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。<b>BOOT</b> 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。</p> <hr/> <p><b>ENABLE_BREAK</b> : ユーザがコンソールの <b>Break</b> キーを押すと自動起動プロセスを中断できるようになります。</p> <p>有効な値は 1、Yes、On、0、No、および Off です。1、Yes、または On に設定されている場合は、フラッシュファイルシステムの初期化後にコンソール上で <b>Break</b> キーを押すことで、自動起動プロセスを中断できます。</p> <hr/> <p><b>HELPER filesystem:/file-url</b> : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。</p> <hr/> <p><b>PS1 prompt</b> : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。</p> <hr/> <p><b>CONFIG_FILE flash:/file-url</b> : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名を指定します。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**BAUD rate** : コンソールのボーレートに使用するビット数/秒 (b/s) を指定します。コンフィギュレーションファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。指定できる範囲は0～128000 b/s です。有効値は、50、75、110、150、300、600、1200、1800、2000、2400、3600、4800、7200、9600、14400、19200、28800、38400、56000、57600、115200、および128000 です。

最も一般的な値は、300、1200、2400、9600、19200、57600、および115200 です。

**SWITCH\_NUMBER** *stack-member-number* : スタックメンバのメンバ番号を変更します。

**SWITCH\_PRIORITY** *priority-number* : スタックメンバのプライオリティ値を変更します。

#### コマンドデフォルト

環境変数のデフォルト値は、次のとおりです。

MANUAL\_BOOT: No (0)

BOOT : ヌルストリング

ENABLE\_BREAK : No (Off または 0) (コンソール上で Break キーを押して自動起動プロセスを中断することはできません)。

HELPER: デフォルト値はありません (ヘルパーファイルは自動的にロードされません)。

PS1 device :

CONFIG\_FILE: config.text

BAUD : 9600 b/s

SWITCH\_NUMBER: 1

SWITCH\_PRIORITY: 1



(注) 値が設定された環境変数は、各ファイルのフラッシュファイルシステムに保管されます。ファイルの各行には、環境変数名と等号に続いて、その変数の値が指定されます。

このファイルに表示されていない変数には値がありません。表示されていればヌルストリングであっても値があります。ヌルストリング (たとえば“”) が設定されている変数は、値が設定された変数です。

多くの環境変数は事前に定義されており、デフォルト値が設定されています。

#### コマンドモード

ブートローダ

#### コマンド履歴

リリース                      変更内容

Cisco IOS XE Fuji 16.9.2    このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 環境変数は大文字と小文字の区別があり、指定どおりに入力する必要があります。

値を持つ環境変数は、フラッシュ ファイル システムの外にあるフラッシュ メモリに保管されます。

通常的环境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL\_BOOT 環境変数は、**boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

BOOT 環境変数は、**boot system filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ENABLE\_BREAK 環境変数は、**boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

HELPER 環境変数は、**boot helper filesystem: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

CONFIG\_FILE 環境変数は、**boot config-file flash: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH\_NUMBER 環境変数は、**switch current-stack-member-number renumber new-stack-member-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH\_PRIORITY 環境変数は、**device stack-member-number priority priority-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ブート ローダのプロンプト スtring (PS1) には、等号 (=) を除く、出力可能な文字列を 120 文字まで指定できます。

## 例

次に、SWITCH\_PRIORITY 環境変数を設定する例を示します。

```
デバイス: set SWITCH_PRIORITY 2
```

設定を確認するには、**set** ブートローダコマンドを使用します。

# show debug

スイッチで使用できるすべての debug コマンドを表示するには、特権 EXEC モードで **show debug** コマンドを使用します。

## show debug

**show debug condition** *Condition identifier* | *All conditions*

### 構文の説明

*Condition identifier* 使用される条件識別子の値を設定します。範囲は、1～1000です。

*All conditions* 使用可能なすべての条件付きデバッグ オプションを表示します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高プライオリティが割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカルサポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。さらに、**debug** コマンドは、ネットワークトラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時間帯を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

### 例

次に、**show debug** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス# show debug condition all
```

デバッグを無効にするには、**no debug all** コマンドを使用します。

# show flow monitor

Flexible NetFlow フロー モニタのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow monitor** コマンドを使用します。

```
show flow monitor [{broker [{detail | picture}] | [name] monitor-name [{cache [format {csv | record | table}]}]} | provisioning | statistics}]
```

## 構文の説明

<b>broker</b>	(任意) フロー モニタのブローカの状態に関する情報を表示します。
<b>detail</b>	(任意) フロー モニタのブローカに関する詳細情報を表示します。
<b>picture</b>	(任意) ブローカ状態の画像を表示します。
<b>name</b>	(任意) フロー モニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	(任意) 事前に設定されたフロー モニタの名前。
<b>cache</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表示します。
<b>format</b>	(任意) ディスプレイ出力のフォーマット オプションのいずれかを使用することを指定します。
<b>csv</b>	(任意) フローモニタのキャッシュの内容をカンマ区切り値 (CSV) 形式で表示します。
<b>record</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容をレコード形式で表示します。
<b>table</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表形式で表示します。
<b>provisioning</b>	(任意) フロー モニタのプロビジョニング情報を表示します。
<b>statistics</b>	(任意) フロー モニタの統計情報を表示します。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**cache** キーワードでは、デフォルトでレコード形式が使用されます。

**show flowmonitor monitor-name cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる大文字のフィールド名は、フローの識別に Flexible NetFlow が使用するキーフィールドです。 **show flow monitor monitor-name cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる小文字のフィールド名は、Flexible NetFlow がキャッシュの追加データとして値を収集する非キーフィールドです。

## 例

次の例では、フロー モニタのステータスを表示します。

```
デバイス# show flow monitor FLOW-MONITOR-1
```

```
Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:      Used for basic traffic analysis
  Flow Record:     flow-record-1
  Flow Exporter:   flow-exporter-1
                  flow-exporter-2

  Cache:
    Type:          normal
    Status:        allocated
    Size:          4096 entries / 311316 bytes
    Inactive Timeout: 15 secs
    Active Timeout: 1800 secs
    Update Timeout: 1800 secs
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 2: `show flow monitor monitor-name` フィールドの説明

フィールド	説明
Flow Monitor	設定したフロー モニタの名前。
Description	モニタに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Flow Record	フロー モニタに割り当てられたフロー レコード。
Flow Exporter	フロー モニタに割り当てられたエクスポータ。
Cache	フロー モニタのキャッシュに関する情報。
Type	フロー モニタのキャッシュ タイプ。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>immediate</code> : フローは即座に期限切れになります。</li> <li>• <code>normal</code> : フローは通常どおり期限切れになります。</li> <li>• <code>Permanent</code> : フローは期限切れになりません。</li> </ul>
Status	フロー モニタのキャッシュのステータス。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>allocated</code> : キャッシュが割り当てられています。</li> <li>• <code>being deleted</code> : キャッシュが削除されています。</li> <li>• <code>not allocated</code> : キャッシュが割り当てられていません。</li> </ul>
Size	現在のキャッシュ サイズ。

フィールド	説明
Inactive Timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値（秒単位）。
Active Timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値（秒単位）。
Update Timeout	更新タイムアウトの現在の値（秒単位）。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表示します。

```

デバイス# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      (   300 secs)     2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:        0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:    6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                      2001:DB8::1
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                 2001:DB8:1::1
TRNS SOURCE PORT:                          1111
TRNS DESTINATION PORT:                    2222
IP VERSION:                               6
IP PROTOCOL:                              6
IP TOS:                                    0x05
IP TTL:                                    11
tcp flags:                                 0x20
counter bytes long:                        132059538
counter packets long:                      1158417

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 3: show flow monitor monitor-name cache フィールドの説明

フィールド	説明
Cache type	フローモニタのキャッシュタイプ。この値は常に <b>normal</b> となります。これが唯一サポートされているキャッシュタイプです。
Cache Size	キャッシュ内のエントリ数。
Current entries	キャッシュ内の使用中のエントリ数。
Flows added	キャッシュの作成後にキャッシュに追加されたフロー。
Flows aged	キャッシュの作成後に期限切れになったフロー。
Active timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値（秒単位）。

フィールド	説明
Inactive timeout	非アクティブタイムアウトの現在の値（秒単位）。
DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 送信元アドレス。
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 宛先アドレス。
IPV6 SOURCE ADDRESS	IPv6 送信元アドレスです。
IPV6 DESTINATION ADDRESS	IPv6 宛先アドレス。
TRNS SOURCE PORT	トランスポート プロトコルの送信元ポート。
TRNS DESTINATION PORT	トランスポート プロトコルの宛先ポート。
IP VERSION	IP バージョン。
IP PROTOCOL	プロトコル番号。
IP TOS	IP タイプ オブ サービス (ToS) の値。
IP TTL	IP 存続可能時間 (TTL) の値。
tcp flags	TCP フラグの値。
counter bytes	カウントされたバイト数。
counter packets	カウントされたパケット数。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表形式で表示します。

```

デバイス# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache format table
Cache type:                Normal (Platform cache)
Cache size:                 Unknown
Current entries:            1

Flows added:                3
Flows aged:                 2
- Active timeout           ( 300 secs) 2

```

```

DATALINK MAC SRC ADDR INPUT  DATALINK MAC DST ADDR INPUT  IPV6 SRC ADDR  IPV6 DST ADDR
TRNS SRC PORT  TRNS DST PORT  IP VERSION  IP PROT  IP TOS  IP TTL  tcp flags  bytes
long  pkts long
=====
=====
=====
0000.0000.1000                6400.F125.59E6                2001:DB8::1    2001:DB8::1:1
      1111                2222                6                6 0x05                11 0x20                132059538
1158417

```

次の例では、FLOW-MONITOR-IPv6 という名前のフロー モニタ（キャッシュに IPv6 データを格納）のステータス、統計情報、およびデータをレコード形式で表示します。

```

デバイス# show flow monitor name FLOW-MONITOR-IPv6 cache format record
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      (   300 secs)     2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:        0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:    6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                      2001::2
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                 2002::2
TRNS SOURCE PORT:                         1111
TRNS DESTINATION PORT:                    2222
IP VERSION:                               6
IP PROTOCOL:                              6
IP TOS:                                    0x05
IP TTL:                                    11
tcp flags:                                 0x20
counter bytes long:                       132059538
counter packets long:                     1158417

```

次の例では、フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

```

デバイス# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 statistics
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      (   300 secs)     2

```

## show install

インストールパッケージに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show install** コマンドを使用します。

**show install {active | committed | inactive | log | package {bootflash: | flash: | webui:} | rollback | summary | uncommitted}**

構文の説明	<b>active</b>	アクティブなパッケージに関する情報を表示します。
	<b>committed</b>	永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。
	<b>inactive</b>	非アクティブなパッケージを表示します。
	<b>log</b>	ログ インストールバッファに格納されているエントリを表示します。
	<b>package</b>	説明、再起動情報、パッケージ内のコンポーネントなど、パッケージに関するメタデータ情報を表示します。
	<b>{bootflash:   flash:   harddisk:   webui:}</b>	インストールパッケージのロケーションを指定します。
	<b>rollback</b>	保存されているインストールに関連付けられたソフトウェアセットを表示します。
	<b>summary</b>	アクティブ、非アクティブ、コミット済み、廃止されたパッケージのリストに関する情報を表示します。
	<b>uncommitted</b>	非永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.4	このコマンドがシリーズの C9200L モデルに追加されました。

**使用上のガイドライン** インストールパッケージのステータスを表示するには、**show** コマンドを使用します。

## 例

次に、**show install package** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install package bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
CSCxxx.SSA.dmp.bin
Name: cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SS
Version: 16.6.1.0.199.1484082952..Everest
Platform: Catalyst3k
Package Type: dmp
Defect ID: CSCxxx
Package State: Added
Supersedes List: {}
Smu ID: 1
```

次に、**show install summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install summary

Active Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Inactive Packages:
  No packages
Committed Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Uncommitted Packages:
  No packages
Device#
```

下の表に、ディスプレイ内に表示される重要なフィールドのリストを示します。

表 4: **show install summary** フィールドの説明

フィールド	説明
Active Packages	アクティブなインストールパッケージの名前。
Inactive Packages	非アクティブなパッケージのリスト。
Committed Packages	変更がリロード以降も存続するように、ハードディスクに変更を保存またはコミットしたインストールパッケージ。
Uncommitted Packages	非永続的なインストールパッケージのアクティベーション。

次に、**show install log** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install log

[0|install_op_boot]: START Fri Feb 24 19:20:19 Universal 2017
[0|install_op_boot]: END SUCCESS Fri Feb 24 19:20:23 Universal 2017
[3|install_add]: START Sun Feb 26 05:55:31 UTC 2017
[3|install_add(FATAL)]: File path (scp) is not yet supported for this command
[4|install_add]: START Sun Feb 26 05:57:04 UTC 2017
[4|install_add]: END SUCCESS
/bootflash/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCvb12345.SSA.dmp.bin
Sun Feb 26 05:57:22 UTC 2017
```

```
[5|install_activate]: START Sun Feb 26 05:58:41 UTC 2017
```

## 例

次の出力例は、**show install summary** コマンドを使用して、アクティブ、非アクティブ、コミット済み、およびコミットされていないパッケージに関する情報を表示します。ここでは、SMU パッケージファイル

cat9k\_lite\_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin がアクティブでコミットされています。

```
Device# show install summary
```

```
Active Packages:
  tftp:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Inactive Packages:
  No packages
Committed Packages:
  tftp:cat9k_lite_iosxe.16.09.04.CSCvk70181.SPA.smu.bin
Uncommitted Packages:
  No packages
Device#
```

下の表に、ディスプレイ内に表示される重要なフィールドのリストを示します。

表 5: **show install summary** フィールドの説明

フィールド	説明
Active Packages	アクティブなインストールパッケージの名前。
Inactive Packages	非アクティブなパッケージのリスト。
Committed Packages	変更がリロード以降も存続するように、ハードディスクに変更を保存またはコミットしたインストールパッケージ。
Uncommitted Packages	非永続的なインストールパッケージのアクティベーション。

次に、**show install active** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install active
```

```
Active Packages:
tftp:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
```

次に、**show install log** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install log
```

```
[0|install_op_boot]: START Wed Jun 10 19:31:50 Universal 2020
[0|install_op_boot]: END SUCCESS Wed Jun 10 19:31:56 Universal 2020
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install</b>	SMUパッケージをインストールします。

# show license all

権限付与情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを使用します。

## show license all

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドでは、スマートライセンスが有効になっているかどうか、関連付けられているすべてのライセンス証明書、コンプライアンスステータスなども表示されます。

### 例

次に、**show license all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license allSmart Licensing Status
=====

Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: CISCO Systems
  Virtual Account: NPR
  Export-Controlled Functionality: Allowed
  Initial Registration: First Attempt Pending
  Last Renewal Attempt: SUCCEEDED on Jul 19 14:49:49 2018 IST
  Next Renewal Attempt: Jan 15 14:49:48 2019 IST
  Registration Expires: Jul 19 14:43:48 2019 IST

License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Next Communication Attempt: Aug 27 07:02:56 2018 IST
  Communication Deadline: Oct 26 06:57:50 2018 IST

Utility:
  Status: DISABLED

Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED

Transport:
  Type: Callhome

License Usage
```

## show license all

```

=====
C9200L DNA Advantage, 48-port Term license (C9200L-DNA-A-48):
  Description: C9200L DNA Advantage, 48-port Term license
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED

C9200L Network Advantage, 48-port license (C9200L-NW-A-48):
  Description: C9200L Network Advantage, 48-port license
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED

Product Information
=====
UDI: PID:C9200L-48P-4X,SN:JPG221300KP

Agent Version
=====
Smart Agent for Licensing: 4.4.13_rel/116
Component Versions: SA:(1_3_dev)1.0.15, SI:(dev22)1.2.1, CH:(rel15)1.0.3, PK:(dev18)1.0.3

Reservation Info
=====
License reservation: DISABLED

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
<b>show license udi</b>	UDIを表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。
<b>show tech-support license</b>	デバッグ出力を表示します。

## show license status

ライセンスのコンプライアンスステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show license status** コマンドを使用します。

### show license status

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

#### 例

次に、**show license status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license status

Smart Licensing is ENABLED

Utility:
  Status: DISABLED

Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED

Transport:
  Type: Callhome

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: Cisco Systems
  Virtual Account: NPR
  Export-Controlled Functionality: Allowed
  Initial Registration: First Attempt Pending
  Last Renewal Attempt: SUCCEEDED on Jul 19 14:49:49 2018 IST
  Next Renewal Attempt: Jan 15 14:49:47 2019 IST
  Registration Expires: Jul 19 14:43:47 2019 IST

License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Next Communication Attempt: Aug 27 07:02:56 2018 IST
  Communication Deadline: Oct 26 06:57:50 2018 IST
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
<b>show license udi</b>	UDI を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。
<b>show tech-support license</b>	デバッグ出力を表示します。

## show license summary

すべてのアクティブなライセンスの要約を表示するには、特権 EXEC モードで **show license summary** コマンドを使用します。

### show license summary

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

次に、**show license summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license summary
Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: CISCO Systems
  Virtual Account: NPR
  Export-Controlled Functionality: Allowed
  Last Renewal Attempt: SUCCEEDED
  Next Renewal Attempt: Jan 15 14:49:48 2019 IST

License Authorization:
  Status: AUTHORIZED
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED
  Next Communication Attempt: Aug 27 07:02:56 2018 IST

License Usage:
  License                               Entitlement tag                Count Status
  -----
  C9200L DNA Advantage... (C9200L-DNA-A-48) 1 AUTHORIZED
  C9200L Network Advan... (C9200L-NW-A-48) 1 AUTHORIZED
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。
<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
<b>show license udi</b>	UDI を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。
<b>show tech-support license</b>	デバッグ出力を表示します。

# show license udi

固有デバイス識別子（UDI）を表示するには、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを使用します。

## show license udi

---

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

---

### コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

---

### コマンド履歴

リリース

変更内容

---

Cisco IOS XE Fuji 16.9.1 このコマンドが導入されました。

---

### 例

次に、**show license udi** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license udi
UDI: PID:C9200L-48P-4X, SN:JPG221300KP
```

## show license usage

ライセンス使用情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license usage** コマンドを使用します。

### show license usage

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

特権 EXEC (#)

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show license usage** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license usage
License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 28 07:02:56 2018 IST

C9200L DNA Advantage, 48-port Term license (C9200L-DNA-A-48):
  Description: C9200L DNA Advantage, 48-port Term license
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED

C9200L Network Advantage, 48-port license (C9200L-NW-A-48):
  Description: C9200L Network Advantage, 48-port license
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。
<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
<b>show license udi</b>	UDI を表示します。
<b>show tech-support license</b>	デバッグ出力を表示します。

# show location

エンドポイントのロケーション情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show location** コマンドを使用します。

## show location

```
[{admin-tag | civic-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | custom-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | elin-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | geo-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | host}]
```

### 構文の説明

<b>admin-tag</b>	管理タグまたはサイト情報を表示します。
<b>civic-location</b>	都市ロケーション情報を指定します。
<b>identifier</b> <i>identifier-string</i>	シビックロケーション、カスタムロケーション、または地理空間的なロケーションの情報識別子。
<b>interface</b> <i>type number</i>	インターフェイスのタイプと番号  デバイスに対する番号付け構文については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。
<b>static</b>	設定されたシビック、カスタム、または地理空間的ロケーション情報を表示します。
<b>custom-location</b>	カスタムロケーション情報を指定します。
<b>elin-location</b>	緊急ロケーション情報 (ELIN) を指定します。
<b>geo-location</b>	地理空間的なロケーション情報を指定します。
<b>host</b>	シビック、カスタム、または地理空間的なホストロケーション情報を指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

次の **show location civic-location** コマンドの出力例は、指定された識別子 (*identifier* 1) のシビックロケーション情報を表示します。

```
Device# show location civic-location identifier 1
Civic location information
-----
Identifier           : 1
County              : Santa Clara
Street number       : 3550
Building            : 19
Room                : C6
Primary road name   : Example
City                : San Jose
State               : CA
Country             : US
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>location</b>	エンドポイントにロケーション情報を設定します。

# show mac address-table move update

device 上の MAC アドレステーブル移動更新情報を表示するには、EXEC モードで **show mac address-table move update** コマンドを使用します。

## show mac address-table move update

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show mac address-table move update** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show mac address-table move update

Switch-ID : 010b.4630.1780
Dst mac-address : 0180.c200.0010
Vlans/Macs supported : 1023/8320
Default/Current settings: Rcv Off/On, Xmt Off/On
Max packets per min : Rcv 40, Xmt 60
Rcv packet count : 10
Rcv conforming packet count : 5
Rcv invalid packet count : 0
Rcv packet count this min : 0
Rcv threshold exceed count : 0
Rcv last sequence# this min : 0
Rcv last interface : Po2
Rcv last src-mac-address : 0003.fd6a.8701
Rcv last switch-ID : 0303.fd63.7600
Xmt packet count : 0
Xmt packet count this min : 0
Xmt threshold exceed count : 0
Xmt pak buf unavail cnt : 0
Xmt last interface : None

```

## show parser encrypt file status

プライベート設定の暗号化ステータスを表示するには、**show parser encrypt file status** コマンドを使用します。

### show parser encrypt file status

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

なし

#### コマンドモード

ユーザ EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

#### 例

次のコマンド出力は、機能が使用可能で、ファイルが暗号化されていることを示します。ファイルは「暗号テキスト」形式です。

```
Device> enable
Device# show parser encrypt file status
Feature:           Enabled
File Format:       Cipher text
Encryption Version: ver1
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>service private-config-encryption</b>	プライベート設定ファイルの暗号化を有効にします。

## show platform integrity

起動段階のチェックサムレコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform integrity** コマンドを使用します。

**show platform integrity [sign [nonce <nonce>]]**

構文の説明	<b>sign</b> (任意) 署名を表示します。
	<b>nonce</b> (任意) ナンス値を入力します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)
コマンド履歴	リリース 変更内容 ス  このコマンドが導入されました。

### 例

次に、起動段階のチェックサムレコードを表示する例を示します。

デバイス# **show platform integrity sign**

```
PCR0: EE47F8644C2887D9BD4DE3E468DD27EB93F4A606006A0B7006E2928C50C7C9AB
PCR8: E7B61EC32AFA43DA1FF4D77F108CA266848B32924834F5E41A9F6893A9CB7A38
Signature version: 1
Signature:
816C5A29741BBAC1961C109FFC36DA5459A44DBF211025F539AFB4868EF91834C05789
5DAFBC7474F301916B7D0D08ABE5E05E66598426A73E921024C21504383228B6787B74
8526A305B17DAD3CF8705BACFD51A2D55A333415CABC73DAFDEEFD8777AA77F482EC4B
731A09826A41FB3EFC46DC02FBA666534DBEC7DCC0C029298DB8462A70DBA26833C2A
1472D1F08D721BA941CB94A418E43803699174572A5759445B3564D8EAE57D64AE304
EE1D2A9C53E93E05B24A92387E261199CED8D8A0CE7134596FF8D2D6E6DA773757C70C
D3BA91C43A591268C248DF32658999276FB972153ABE823F0ACFE9F3B6F0AD1A00E257
4A4CC41C954015A59FB8FE
Platform: WS-C3650-12X48UZ
```

# show platform sudi certificate

特定の SUDI のチェックサムレコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform sudi certificate** コマンドを使用します。

**show platform sudi certificate** [**sign** [**nonce** <nonce>]]

構文の説明	<b>sign</b> (任意) 署名を表示します。
	<b>nonce</b> (任意) ナンス値を入力します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス  このコマンドが導入されました。

## 例

次に、特定の SUDI のチェックサムレコードを表示する例を示します。

デバイス# **show platform sudi certificate**

```

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDQzCCAiugAwIBAgIQX/h7KctU3I1CoxW1aMmt/zANBgkqhkiG9w0BAQUFADA1
MRYwFAYDVQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENB
IDIwNDgwHhcNMDQwNTEOMjAxNzEyWhcNMjkwNTEOMjAyNTQyWjA1MRwFAYDVQQK
Ew1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgwGgEg
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDQAwggEIAoIBAQCwmrmrp68Kd6ficba0ZmKUeIhH
xmJvHEAyv8CrLqUccda8bnuoqrpu0hWIESEWdovyD0My5j0AmaHBKeN8hF570YQXJ
FcjPFto1YYmUQ6iEqDGYeJu5Tm8sUxJsZr2tKyS7McQr/4NEb7Y9JHcJ6r8qqB9q
VvYgDxFUL4F1pyXOWWqCZe+36ufijXWlLvLd6ZeYpzPEApk0E5tzivMW/VgpSdh
jWn0f84bcN5wGyDWbs2mAag8EtKpP6BrXruOIIt6keO1a06g58QBdKhTCytKmg9l
Eg6CTY5j/e/rmxrbU6YTYK/CfdHbBcl1HP7R2RQgYCUTOG/rksc35LtLgXfAgED
o1EwTzALBgNVHQ8EBAMCAYYwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUJ/PI
FR5umgIJFq0roIlgX9p7L6owEAYJKwYBBAGCNxUBBAMCAQAwDQYJKoZIhvcNAQEF
BQADggEBAJ2dhISjQal8dwy3U8pORFbi71R803UXHOjgXkhLtv5MOhmBVRbW7hmW
Yqpao2TB9k5UM8Z3/sUcuuVdJcr18JOagxEu5sv4dEX+5wW4q+ffY0vhN4TauYuX
cB7w4ovXsNgOnbFp1iqRe6lJT37mjpXYgyc81WhJdTsD9i7rp77rMKSSh0T8lasz
Bvt9YaretIppsJyp8qS5UwGH0GikJ3+r/+n6yUA4iGe0OcaEblfJU9u6ju7AQ7L4
CYNu/2bPPu8Xs1gYJQk0XuPL1hS27PKSb3TkL4Eq1ZKR4OCXPdJoBYVL0fdX4lId
kxpUnwVwEpxYB5DC2Ae/qPOgRnhCzU=
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEPDCCAySgAwIBAgIKYQ1ufQAAAAADDANBgkqhkiG9w0BAQUFADA1MRYwFAYD
VQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgw
HhcNMTcwNTEwMjAxNzEyWhcNMjkwNTEOMjAyNTQyWjA1MRwFAYDVQQKEw1DaXNj
bzEVMBMGA1UEAxMMQUNUMiBTURJiENBMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8A
MIIBCAQEA0m5l3THIx9tN/hS5qR/6UZRpdd+9aE2JbFkNjht6gfHKd477AkS
5XAtUs5oxDYVt/zEbs1Zq3+LR6qrqKQVu6JYvh05UYLBqCj38s76NLk53905Wzp
9pRcmRCPUx+a6tHF/qRuOiJ44mdeDYzo3qPCpxzprWJDPc1M4iYKHumMQMqmgmg+
xghHIOoWS80B0cdiynEbeP5rZ7qRuewKmp11TiI3WdbNjZjnpfjg66F+P4SaDkGb
BXDgJ13oVeF+EyFWLrFjj97fL2+8oauV43Qrvnf3d/GfqXj7ew+/sXlXtEOjSXJ
URsyMEj53Rdd9tJwHky8neapszS+r+kdVQIDAQABo4IBWjCCAyYwCwYDVR0PBAQD

```

## show platform sudi certificate

```

AgHGMB0GA1UdDgQWBbRI2PHxwnDVW7t8cwmTr7i4MAP4fzAfBgNVHSMEGDAWgBQn
88gVHm6aAgkWrSugiWbf2nsvqjBDBgNVHR8EPDA6MDIqNqA0hjJodHRWoi8vd3d3
LmNpc2NvLmNvbS9zZW50cm10eS9wa2kvY3JsL2NyY2EyMDQ4LmNybDBQBggrBgEF
BQcBAQREMEIwQAYIKwYBBQUHMAKGNH0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3NlY3Vy
aXR5L3BraS9jZXXJ0cy9jcmNhMjA0OC5jZXIwXAYDVR0gBFUwUzBRBgorBgEEAQK
V AQwAMEMwQQYIKwYBBQUHAgEWNWh0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3NlY3Vy
aXR5L3BraS9wb2xpY2llcy9pbmRleC5odG1sMBIGAlUdEwEB/wQIMAYBAf8CAQA
wDQYJ KoZThvcNAQEFBQADggEBAGh1qclr9tx4hzWgDERm371yeuEmqcIfi9b9+G
bMSJbi ZHc/CcCl01Ju0a9zTXA9w47H9/t6leduGxb4WeLxcwCiUgvFtCa51Iklt8
nNbcKY /4dw1ex+7amATUQ04QggIE67wVIPu6bgAE3Ja/nRS3xKYSnj8H5Tehim
BSv6TECi i5jUhOwryAK4dVo8hCjkjEkzu3ufBTJapnv89g9OE+H3VKM4L+/Kdk
UO+52djFKn hyl47d7cZR4Y4LIuFM2P1As8YyjoNpK/urSRI14WdIlpLr1nH7K
ND15618yfVP 0IFJZBGrooCRBjOSwFv8cpWcbPaCQT2nwIjTfy8c=
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIDhJCCAm6gAwIBAgIDctWkMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMCcxDjAMBGNVBAoTBUNP
c2NvNmRUwEwYDVQQDEwxBQ1QyIFNVREkgQ0EwHhcNMTUwODAMZDgwODI1WhcN
MjUw ODA2MDgwODI1WjBzMSwwKgYDVQQFEyNQSUQ6V1MtQzM2NTAtMTJYNdhV
WiBTTjppG RE8xOTMyWDAwQzEOMAwGA1UEChMFQ21zY28xGDAWBgNVBAsTD0
FDVC0yIExpdmUg U1VESTZMBcGA1UEAxMQV1MtQzM2NTAtMTJYNdhVWjCCAS
IwDQYJKoZIhvcNAQEB BQADggEPADCCAQoCggEBANZxOGYI0eUl4HcSwjL4HO
75qtj19C2BHG3ufce9ikkN xwGXi8qg8vKxub9tRYRaJC5bP1Wmoq7+ZJtQA
079xE4X14soNbkq5NaUhh7RB1wD iRUJvTfCoZVICbNfbzvtB30I75tCarF
Nmpd0K6AFrIa41U988QGqaCj7R1JrYNaj nC73UXXM/hc0HtNR5mhyqer
5Y2qjjzo6tHZYqrrx2eS1X0a262ZSQRiAxmaH/KLC K97ywyRbdJlxBRX3
hGtKlog8nASB8WpXqB9NVCERzUajwU3L/kg2BsCqw9Y2m7HW U1cerTxgthuy
UkdNI+Jg6iGAp2+s8E9hsHPBPMCdIsCAwEAAANvMG0wDgYDVR0P AQH/BAQ
DAgXgMAwGA1UdEwEB/wQCMAAwTQYDVR0RBEYwRKBCBgkrBgEEAQKvAgOg
NRMzQ2hpcE1EPVVZSk5ORmRRRlFvN1ZIVmxJRTlqZENBeU9DQXhPRG93Tl
RveE1T QVg5eWc9MA0GCSqGSIb3DQEBCwUAA4IBAQBKicTRZbVCRjVIR5MQ
cWXUT086v6Ej HahDHTts3YpQoyAVfioNg2x8J6EXcEau4voyVu+eMUoNL4s
zPhmmDcULfiCGBcA /R3EFuoVMIzNT0geziytsCf728KGw1oGuosgVjNGO
OahUELu4+F/My7bIJNBH+PD KjIFmhJpJg0F3q17yClAeXvd13g3W393i35
d00Lm5L1WbBfQTyBaOLAbxsHvutrX ulVZ5sdqStWtkk09vKMaQjh7a8J/
AmJi93jvzM69pe5711P1zqZfYfpiJ3cyJ0xf I4brQ1smdczloFD4asF7A
+1vor5e4VDBP0ppmeFAJvCQ52JTpj0M0o1D
-----END CERTIFICATE-----

```

## show sdm prefer

特定の機能用のシステムリソースを最大にするために使用できるテンプレートに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show sdm prefer** コマンドを使用します。現在のテンプレートを表示するには、キーワードを指定せずにコマンドを使用します。

### show sdm prefer [advanced]

構文の説明	<b>advanced</b> (任意) 高度なテンプレートに関する情報を表示します。				
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンドモード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.2</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** **sdm prefer** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後にスイッチをリロードしていない場合、**show sdm prefer** 特権 EXEC コマンドでは、新しく設定されたテンプレートでなく現在使用中のテンプレートが表示されます。

各テンプレートで表示される番号は、各機能のリソースにおけるおおよその最大数になります。他に設定された機能の実際の数字にもよるため、実際の数字とは異なる場合があります。たとえば、**device**に 16 を超えるルーテッド インターフェイス (サブネット VLAN) がある場合、デフォルトのテンプレートでは、可能なユニキャスト MAC アドレスの数は 6000 未満になることがあります。

### 例

次に、**show sdm prefer** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show sdm prefer

Showing SDM Template Info

This is the Advanced template.
Number of VLANs:                               4094
Unicast MAC addresses:                          32768
Overflow Unicast MAC addresses:                 512
IGMP and Multicast groups:                     8192
Overflow IGMP and Multicast groups:             512
Directly connected routes:                     32768
Indirect routes:                                7680
Security Access Control Entries:                3072
QoS Access Control Entries:                     3072
Policy Based Routing ACEs:                      1024
Netflow ACEs:                                   1024

```

```
Input Microflow policer ACEs:          256
Output Microflow policer ACEs:         256
Flow SPAN ACEs:                        256
Tunnels:                                256
Control Plane Entries:                  512
Input Netflow flows:                    8192
Output Netflow flows:                   16384
SGT/DGT entries:                        4096
SGT/DGT Overflow entries:               512
```

These numbers are typical for L2 and IPv4 features.  
Some features such as IPv6, use up double the entry size;  
so only half as many entries can be created.

デバイス#

# show tech-support license

デバッグ出力を表示するには、特権 EXEC モードで **show license tech support** コマンドを使用します。

## show tech-support license

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show tech-support license** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support license
----- show clock -----

*12:35:48.561 EDT Tue Jul 17 2018

----- show version -----

Cisco IOS XE Software, Version 16.09.01prd7
Cisco IOS Software [Fuji], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_IOSXE), Version 16.9.1prd7,
RELEASE SOFTWARE (fc1)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2018 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 10-Jul-18 08:47 by mcpre

Cisco IOS-XE software, Copyright (c) 2005-2018 by cisco Systems, Inc.
All rights reserved. Certain components of Cisco IOS-XE software are
licensed under the GNU General Public License ("GPL") Version 2.0. The
software code licensed under GPL Version 2.0 is free software that comes
with ABSOLUTELY NO WARRANTY. You can redistribute and/or modify such
GPL code under the terms of GPL Version 2.0. For more details, see the
documentation or "License Notice" file accompanying the IOS-XE software,
or the applicable URL provided on the flyer accompanying the IOS-XE
software.
!
!
!
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license all</b>	権限付与情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show license status</b>	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
<b>show license summary</b>	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
<b>show license udi</b>	UDI を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。

# system env temperature threshold yellow

イエローのしきい値を決定する、イエローとレッドの温度しきい値の差を設定するには、グローバルコンフィギュレーションコマンドで **system env temperature threshold yellow** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**system env temperature threshold yellow value**  
**no system env temperature threshold yellow value**

## 構文の説明

*value* イエローとレッドのしきい値の差を指定します（摂氏）。指定できる範囲は 10～25 です。

## コマンドデフォルト

デフォルト値は次のとおりです。

表 6: 温度しきい値のデフォルト値

デバイス	イエローとレッドの差	レッド <sup>1</sup>
	14 °C	60 °C

<sup>1</sup> レッドの温度しきい値を設定することはできません。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

グリーンとレッドのしきい値を設定することはできませんが、イエローのしきい値を設定することはできます。イエローとレッドのしきい値の差を指定して、イエローのしきい値を設定するには、**system env temperature threshold yellow value** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 66 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 15 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 15** コマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 60 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 9 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 9** コマンドを使用します。



(注) device 内部の温度センサーでシステム内の温度を測定するため、±5 °C の差が生じる可能性があります。

## 例

次の例では、イエローとレッドのしきい値の差を 15 に設定する方法を示します。

**system env temperature threshold yellow**

```
デバイス(config)# system env temperature threshold yellow 15  
デバイス(config)#
```

## traceroute mac

指定の送信元 MAC アドレスから指定の宛先 MAC アドレスまでをパケットが通過するレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **traceroute mac** コマンドを使用します。

```
traceroute mac [interface interface-id] source-mac-address [interface interface-id]
destination-mac-address [vlan vlan-id] [detail]
```

構文の説明	<b>interface</b> <i>interface-id</i> (任意) 送信元または宛先 device 上のインターフェイスを指定します。
	<i>source-mac-address</i> 送信元 device の 16 進形式の MAC アドレス。
	<i>destination-mac-address</i> 宛先 device の 16 進形式の MAC アドレス。
	<b>vlan</b> <i>vlan-id</i> (任意) 送信元 device から宛先 device までをパケットが通過するレイヤ 2 のパスをトレースする VLAN を指定します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。
	<b>detail</b> (任意) 詳細情報を表示するよう指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン レイヤ 2 のトレースルートを適切に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークのすべての device でイネーブルになっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。

device がレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 トレースルートをサポートしていないデバイスを検知した場合、device はレイヤ 2 トレースクエリを送信し続け、タイムアウトにします。

パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。

レイヤ 2 traceroute はユニキャストトラフィックだけをサポートします。マルチキャストの送信元または宛先 MAC アドレスを指定しても、物理的なパスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

指定された送信元および宛先アドレスが同じ VLAN にある場合、**traceroute mac** コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。

異なる VLAN にある送信元および宛先アドレスを指定した場合、レイヤ 2 パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

送信元または宛先 MAC アドレスが複数の VLAN に属する場合は、送信元および宛先 MAC アドレスの両方が属している VLAN を指定する必要があります。

VLAN を指定しないと、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 traceroute 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

## 例

次の例では、送信元および宛先 MAC アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```

デバイス# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5   ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1   ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2   ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed

```

次の例では、**detail** キーワードを使用することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```

デバイス# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201 detail
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24PD / 2.2.6.6 :
      Gi0/0/2 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
      Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
      Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
      Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.

```

次の例では、送信元および宛先 device のインターフェイスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```

デバイス# traceroute mac interface fastethernet0/1 0000.0201.0601 interface fastethernet0/3
0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5   ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1   ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2   ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1

```

```
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
```

次の例では、device が送信元 device に接続されていない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# traceroute mac 0000.0201.0501 0000.0201.0201 detail
Source not directly connected, tracing source .....
Source 0000.0201.0501 found on con5[WS-C3750E-24TD] (2.2.5.5)
con5 / WS-C3750E-24TD / 2.2.5.5 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、device が送信元 MAC アドレスの宛先ポートを検出できない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# traceroute mac 0000.0011.1111 0000.0201.0201
Error:Source Mac address not found.
Layer2 trace aborted.
```

次の例では、送信元および宛先デバイスが異なる VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0301.0201
Error:Source and destination macs are on different vlans.
Layer2 trace aborted.
```

次の例では、宛先 MAC アドレスがマルチキャスト アドレスの場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# traceroute mac 0000.0201.0601 0100.0201.0201
Invalid destination mac address
```

次の例では、送信元および宛先 device が複数の VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Error:Mac found on multiple vlans.
Layer2 trace aborted.
```

## tracroute mac ip

指定の送信元 IP アドレスまたはホスト名から、指定の宛先 IP アドレスまたはホスト名を通過するパケットのレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **tracroute mac ip** コマンドを使用します。

**tracroute mac ip** {*source-ip-address source-hostname*} {*destination-ip-address destination-hostname*}  
[**detail**]

構文の説明	<i>source-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された送信元 device の IP アドレス。
	<i>source-hostname</i>	送信元 device の IP ホスト名。
	<i>destination-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された宛先 device の IP アドレス。
	<i>destination-hostname</i>	宛先 device の IP ホスト名。
	<b>detail</b>	（任意）詳細情報を表示するよう指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**      レイヤ 2 のトレースルートを適切に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークの各 device でイネーブルになっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。

device がレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 トレースルートをサポートしていないデバイスを検知した場合、device はレイヤ 2 トレースクエリを送信し続け、タイムアウトにします。

パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。

指定された送信元および宛先の IP アドレスが同一のサブネット内にある場合、**tracroute mac ip** コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。

IP アドレスを指定した場合、device は Address Resolution Protocol (ARP) を使用し、IP アドレスとそれに対応する MAC アドレスおよび VLAN ID を対応させます。

- 指定の IP アドレスの ARP のエントリが存在している場合、device は関連付けられた MAC アドレスを使用し、物理パスを識別します。

- ARP のエントリが存在しない場合、**device** は ARP クエリを送信し、IP アドレスを解決しようと試みます。IP アドレスは同一のサブネットにある必要があります。IP アドレスが解決されない場合は、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 **tracert** 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

## 例

次の例では、**detail** キーワードを使用して、送信元と宛先の IP アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```

デバイス# tracert mac ip 2.2.66.66 2.2.22.22 detail
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24TD / 2.2.6.6 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
    Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.

```

次の例では、送信元および宛先ホスト名を指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```

デバイス# tracert mac ip con6 con2
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5      ) :   Gi0/0/3 => Gi0/1
con1          (2.2.1.1      ) :   Gi0/0/1 => Gi0/2
con2          (2.2.2.2      ) :   Gi0/0/2 => Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2
Layer 2 trace completed

```

次の例では、ARP が送信元 IP アドレスと対応する MAC アドレスを関連付けられない場合の、レイヤ 2 のパスを示します。

```
デバイス# tracert mac ip 2.2.66.66 2.2.77.77  
Arp failed for destination 2.2.77.77.  
Layer2 trace aborted.
```

# type

1つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **type** コマンドを使用します。

**type** *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。システム ボード フラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。USB メモリスティックには **usbflash0:** を使用します。

*/file-url...* 表示するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

## 例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```

デバイス: type flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:

```

# unset

1つ以上の環境変数をリセットするには、ブートローダモードで**unset** コマンドを使用します。

**unset variable...**

## 構文の説明

<i>variable</i>	<i>variable</i> には、次に示すキーワードのいずれかを使用します。  <b>MANUAL_BOOT</b> : device の起動を自動で行うか手動で行うかどうかを指定します。
	<b>BOOT</b> : 自動起動時に、実行可能ファイルのリストをリセットして、ロードおよび実行します。 <b>BOOT</b> 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。 <b>BOOT</b> 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。
	<b>ENABLE_BREAK</b> : フラッシュファイルシステムの初期化後に、コンソール上の <b>Break</b> キーを使用して自動ブートプロセスを中断できるかどうかを指定します。
	<b>HELPER</b> : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。
	<b>PS1</b> : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。
	<b>CONFIG_FILE</b> : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名をリセットします。
	<b>BAUD</b> : コンソールで使用される速度 (ビット/秒 (b/s) 単位) をリセットします。コンフィギュレーション ファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 通常の環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL\_BOOT 環境変数は、**no boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

BOOT 環境変数は、**no boot system** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

ENABLE\_BREAK 環境変数は、**no boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

HELPER 環境変数は、**no boot helper** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

CONFIG\_FILE 環境変数は、**no boot config-file** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

### 例

次に、SWITCH\_PRIORITY 環境変数をリセットする例を示します。

デバイス: `unset SWITCH_PRIORITY`

## version

ブートローダのバージョンを表示するには、ブートローダモードで **version** コマンドを使用します。

**version** [-v]

構文の説明	▼ ハードウェアアンカー、マイクロローダ、ファームウェア DDR および ROMMON リビジョンのバージョンを表示します。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	ブートローダ				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.2</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Fuji 16.9.2	このコマンドが導入されました。				

### 例

次に、deviceのブートローダのバージョンを表示する例を示します。

```

デバイス: version -v
System Bootstrap, Version 16.10.1r, RELEASE SOFTWARE (P)
Compiled Tue 09/04/2018 22:58:10 by rel

Current ROMMON image : Primary
C9200-48P-4X platform with 2097152 Kbytes of main memory

HARDWARE ANCHOR : v027.0  crayprod_20160517 20160517-2135
MICROLOADER      : v061.0  rel_16_10_1r 20180904-2252
FIRMWARE-DDR    : v011.0  rel_16_10_1r 20180904-2254
ROMMON REVISION : v010.003

```